

プレスリリース

原田隆志、佐藤可英による展覧会、「KIOKU 日本画展」が、在ニューヨーク日本国総領事館広報センター内のギャラリーにおいて開催されます。

KIOKU
JAPANESE PAINTING
TAKASHI HARADA / KAE SATO HARADA

November 2 - 14, 2017
9:30AM - 4:00PM
Closed on Nov. 4,5,10,11,12
Please bring your Photo IDs to enter the building

Location
Japan Information Center Gallery
Consulate General of Japan in New York
299 Park Avenue, 18th Floor, New York, NY 10171

<展示開催場所>

在ニューヨーク日本国総領事館 18階 広報センター ギャラリー
299 Park Avenue, 18th Floor, New York, NY 10171

<展示期間>

2017年11月2日(木) - 2017年11月14日(火) 9:30 am - 4:00 pm
(11月4, 5, 10, 11, 12日は休廊)

*入館される際には写真付き身分証明書が必要になります。

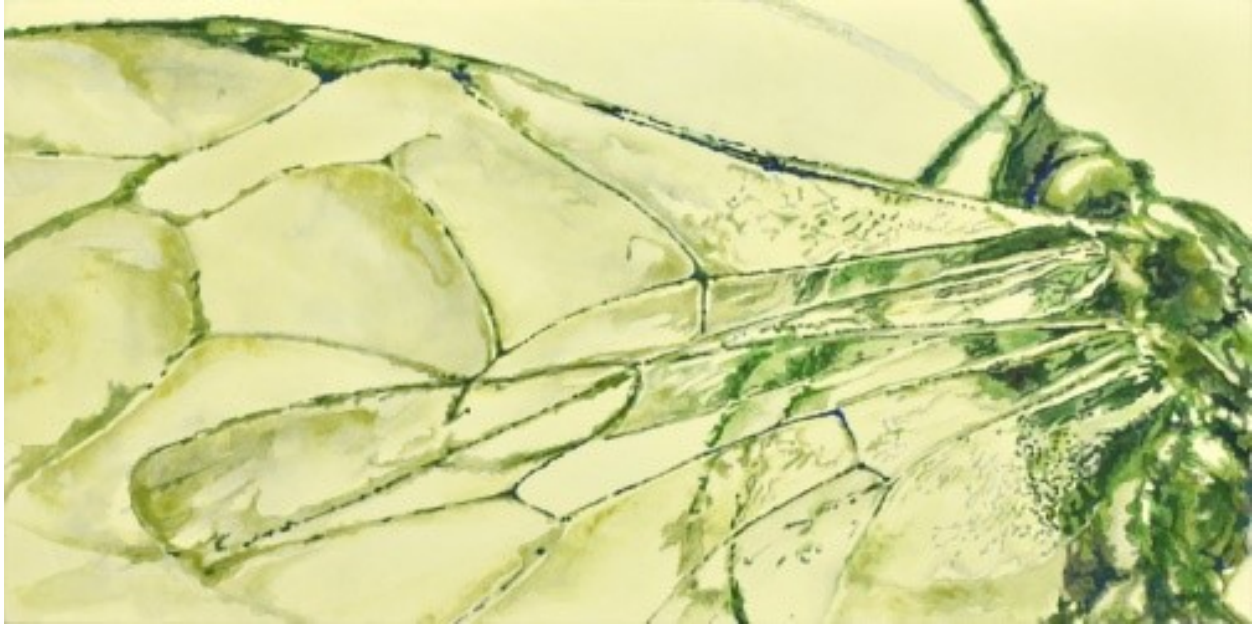


原田隆志参考図版

Cells -red II-

24 in x 24 in

2005



佐藤可英参考図版

Esperanza VII

12in x 24in

2016

<展覧会の概要>

二人の記憶をテーマにした日本画家による日本画の展覧会。

日本国外では未だなじみの薄い、現代の日本画の技法を使った作品群を紹介いたします。

日本画という日本独特の画材、技法をつかい、記憶という共通のテーマを持つ二人の作家、原田隆志と佐藤可英。原田は鑑賞者の持つ記憶を自然物や自然現象の持つ形態を通して引き出し、その行為で鑑賞者の気持ちに作用させようとする一方で、佐藤は自然物を含むこの世のすべてのものに潜む、記憶と歴史を持った“なにか”をとらえようとする。

<作家ステートメント>

原田隆志

私は、人間を含むすべての自然物は一種の共通した構造形態を持ち、それぞれが分子や原子として等しい価値を持って存在していると思っている。

森の中で周りの木々を見上げるとき、私にはそれらが一体となって、なにか生き物がうごめいているかのように感じられることがある。自分はその生き物に包まれているような、またさらにはその大きな生き物の一部として、細胞やもっと小さな分子/原子の一つになったような感覚。このような感覚に、私は何度か陥ったことがある。

私が度々受けるこの非現実的な感覚は、その時自分が森の中で感じる現実的な感覚と、記憶の中にある過去のある重大な時期に得た別の感覚、もしくはもっと別の生物的な存在に関する記憶のようなものが重なり合い、増幅された状態で引き起こされるのではないだろうか。

私は人間の記憶という記録作業が成長段階のいつ頃から始まっているのか知らない。研究者の研究結果や実験の結果を確かな知識として持っているわけでもない。しかしその人間の記憶というものについて私のあやふやな知識をもとに考えている事がある。

人間に備わっている視覚や聴覚など五つの感覚をつかさどる五官と呼ばれる器官は、人間が母体から産まれてくる前の胎児の状態ですでに発達を始めていると聞いたことがある。それぞれの感覚器官がそれぞれ成長のどの段階から発達していくのかは知らないが、人間が母体の中で胎児として存在している時、それらの感覚器官を通して得られた感覚は、人間としての最初の記憶として体内に記録されるのではないだろうかと思っている。

また、生物はその自己の DNA の中にその生物として存在するための情報と個々であるための情報が記録されていると聞く。これらの情報は、さまざまな場面で生物の存在を支配しているようである。私は、人間が一つの細胞から分裂を繰り返し成長を続ける間に、一通りの生物進化の過程をたどるかのような成長をすると聞いた事がある。もしこの事が事実ならば、人間の遺伝子の中に生物として進化してきた過程の記録が確実に残されているのではないだろうか。そしてその記録の中には、自然物としてのある共通した情報が含まれていて、その情報は人間を自然の中で確固たる一つの生物として存在させる事に、大きな影響力を持っているはずであると思っている。

さまざまな植物や動物などの人間とは違う別種の生物や、岩、空気、水などのすべての自然物の間に身を置く時、体内に記録された生物として存在するための情報が、人間自らを自然のある一部分として同一化させ、その遺伝子として体内に残る自然物としての記憶は、人間は小さな一個の原子というレベルで他の自然物と等しい存在であるという感覚を蘇らせるのではないだろうか。私はそういった感覚を呼び起こすことができるような作品を創りたい。

原田 隆志

- 1969 佐賀県に生まれる
1992 東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
1994 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了
1995-1996 東京芸術大学日本画研究室にてティーチングアシスタント
佐藤国際文化育英財団より奨学金
1997 東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻満期終了
1998-1999 渡欧（独/仏）
1999-2000 渡加
2001-2002 渡米、ハワイ在
2002-2007 Robyn Buntin's Oceania Gallery（ホノルル/ハワイ）契約
2003-2007 サンディエゴ、カリフォルニア在
2004-2005 San Diego Art Institute 所属
Limbo. Fine Arts（サンディエゴ、カリフォルニア）契約
Ronis & Associates Fine Art（サンディエゴ、カリフォルニア）契約
2005 Mixture（サンディエゴ、カリフォルニア）契約
2005-現在 Scott White Contemporary Art（サンディエゴ、カリフォルニア）契約
2005-2006 平成17年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員
2007-2012 ロングアイランド、ニューヨーク在
2013-現在 マンハッタン、ニューヨーク在

個展

- 1995 銀座ギャラリー中沢/東京
1997 東京芸術大学芸術資料館陳列館/東京
オレゴンムーンギャラリー/東京
炎の博記念堂/佐賀
2000 東急百貨店東横店美術サロン/東京
2000-2001 佐賀銀行本店、支店/佐賀
2001 佐賀市歴史民俗館/佐賀
2005 Cygnet Theatre Company/サンディエゴ、カリフォルニア
Limbo. Fine Arts/サンディエゴ、カリフォルニア
2007 Scott White Contemporary Art/サンディエゴ、カリフォルニア
2008 Basta Pasta/ニューヨーク、ニューヨーク
新生堂/東京
2017 あべのハルカス近鉄本店美術画廊/大阪

グループ展

- 1991 Fragments/東京芸術大学大学会館展示室/東京
- 1992 東京芸術大学美術学部卒業制作展/東京都美術館/東京
- 1993 東京セントラル美術館日本画大賞展/東京セントラル美術館/東京
- 1994 東京芸術大学美術学部卒業制作展/東京都美術館/東京
- 1995 1995 日本画制作研究発表展(三沢祐一/原田隆二人展)/ギャラリーミキ/東京
- 1996 佐藤国際文化育英財団/第5回奨学生美術展/佐藤美術館/東京
- 1997 東京芸術大学博士展/合同展/銀座井上画廊/東京
珠樹展/横浜ガレリアベリーニの丘ギャラリー/横浜
- 1998 花と緑-自然を描く展/佐藤美術館/東京
- 2000 AN AUTUMN EXHIBITION OF ART WEB SITE/ギャラリー青羅/東京
- 2002 常設展/Robyn Buntin's Oceania Gallery/ホノルル、ハワイ
- 2004 SDAI Regional Artists Show (Feb. Sep.) /San Diego Art Institute/サン
ディエゴ、カリフォルニア
Members' One Foot Show/San Diego Art Institute/サンディエゴ、カリ
フォルニア
One Night Exhibition 及び常設展/Limbo. Fine Arts/サンディエゴ、カリ
フォルニア
Southern California Regional Juried Award Exhibition/San Diego Art
Institute/サンディエゴ、カリフォルニア
- 2005 48th International Awards Exhibition/San Diego Art Institute/サンデ
ィエゴ、カリフォルニア
Limbo. Fine Arts Salon Gallery /San Diego Art Institute/サンディエ
ゴ、カリフォルニア
Kettner Nights/Mixture/サンディエゴ、カリフォルニア
Kettner Nights/Scott White Contemporary Art/サンディエゴ、カリフォ
ルニア
Group Exhibition/Scott White Contemporary Art/サンディエゴ、カリフ
ォルニア
- 2006 Kettner Nights/Scott White Contemporary Art/サンディエゴ、カリフォ
ルニア
- 2007 "PETAL FUSION"/Cheryl Hazan Gallery/ニューヨーク、ニューヨーク
Summer Group Exhibition/Scott White Contemporary Art/サンディエゴ、
カリフォルニア
THE SEVENTH ANNUAL RED SHOW/Cheryl Hazan Gallery/ニューヨーク、ニュ
ーヨーク
- 2008 Argazzi Art Early Fall Show/Argazzi Art/レイクヴィル、コネチカット
- 2009 若水会/新生堂/東京
天の川会展/天満屋/岡山
風の会展/日本橋三越/東京

- 2010 サンフランシスコ・ファイン・アート・フェア/Scott White Contemporary Art/サンフランシスコ、カリフォルニア
虹の会/ギャラリー白石/東京
天の川会展/天満屋/広島・高松
風の会展/日本橋三越/東京
- 2011 疾風会/名古屋松坂屋
千年の会/オンワードギャラリー日本橋/東京
日本画・ニュートラディショナルズ/Dillon Gallery/ニューヨーク
銀河の会/近鉄阿倍野/大阪
空会/ギャラリーくにまつ青山/東京
地平線会/山形屋/鹿児島
グループ・ホライズン/日本橋高島屋/東京
風の会/日本橋三越/東京
東美アートフェア/東京美術倶楽部/東京
- 2012 千年の会/オンワードギャラリー日本橋/東京
空会 2/ギャラリーくにまつ青山/東京
- 2013 空会 3/ギャラリーくにまつ青山/東京
風の会/日本橋三越/東京
- 2014 空会 4/ギャラリーくにまつ青山/東京
- 2015 10人いる展/ギャラリー5610/青山、東京
空会 5/ギャラリーくにまつ青山/東京
近鉄百貨店選抜展/あべのハルカス近鉄本店/大阪
- 2016 空会 6/ギャラリーくにまつ青山/東京
- 2017 第一回ニューヨーク藝大同窓展/Tenri Cultural Institute/ニューヨーク
千幹の会/ジェイアール名古屋タカシマヤ/名古屋
現代作家が描くクレパス展/サクラアートミュージアム/大阪
同巡回展/ギャラリー5610/東京、日南町美術館/鳥取
ABRE CAMINOS/OPENING PATHS/Lugar:Rio II Gallery/ニューヨーク
日本画展/在ニューヨーク日本国総領事館広報センターギャラリー/ニューヨーク
第二回ニューヨーク藝大同窓展/Tenri Cultural Institute/ニューヨーク

主なコレクション

東京藝術大学

川崎重工業株式会社

三菱重工業株式会社

シーザース・パレス・ホテル・ラスベガス

ザ・ウェスティン・ホテル・サンディエゴ

原田隆志 Takashi Harada, 571 W 215TH ST APT E3, NEW YORK, NY 10034

www.takashiharada.com, takashiharada@gmail.com. 631-371-1880

<作家ステートメント>

佐藤可英

私は、この世界のすべてのものには、単に視覚だけでは捉えられない『なにか』が存在し、その存在の中に『記憶』とも呼べるものが残っているのではないかと考えています。

それは、ものに宿る歴史からなる記憶でもあり、空気、土地、生物や植物、地球に残る歴史から生まれてくるものなのではないかと考えます。

その記憶があるからこそ、つづいている現在がある。

絵を描いていると、五感で感じる以外のなにかを感じる時があります。私の記憶の中に「その記憶」が埋め込まれてくる感じがします。記憶の中に音が聞こえ、旋律が流れ、五感すべてに響くリズムの様なものを私は感じます。

物質的に絵画には音や響きはないけれど、そのリズムの様なものを貌ある絵画としてどのように表現するかを意識して制作しています。

「そこに存在する空気」を二次元に表現し、過去、現在、そこにある記憶を捉え、目に見える自然現象とその現象の背後にあるものをも探求し、作品にしたい。

今私が取り組んでいる虫のシリーズも、虫たちやその生きる自然界にあるひとつひとつのものの中に、視覚的には見えない歴史が様々な記憶として埋め込まれ、その記憶と存在は、形や文様、動きの中からも捉えられると考えています。

小さな虫の存在は、とても長い歴史を持ち、その生きる力強さと、そしてそこに存在する歴史の記憶を私たちに呼び起こさせてくれる。そう感じて取り組んでいる虫や蝶と、それを取り巻く自然界は私にとって魅力ある、ひとつのテーマです。

そしてそれを可能にするものが、自分には宇宙の誕生からの歴史を内在する鉱物由来の日本画の材料であり、繊細な表現のできる墨と日本の筆なのです。

佐藤 可英

東京都生まれ

現在ニューヨークにて活動

武蔵野美術大学造形学部日本画科卒業

個展

2012年 4月／銀座・ギャラリーセイコウドウ(以後'14、'16)

2015年 10月／京橋・林田画廊

グループ展

2001年 日展 初入選(以後'04、'05、'06、'07)／東京都美術館

NIPPON 展／フィレンツェ・Parte Guelfa

2002年 日春展 初入選(以後'05、'06、'07、'09、'10、'12、'14)

2007年 渺渺展／銀座・東京銀座画廊美術館(以後'08、'09)

2008年 乍展／銀座・ギャラリーセイコウドウ

2009年 手の上の渺渺展／湯島・はぐろ洞

第一回子の星日本画展／銀座・松屋銀座美術画廊(以後'11、'12)

2012年 日春展 奨励賞受賞／銀座・松屋銀座

2015年 10人いる展／表参道・ギャラリー5610

2016年 堂島リバーアワード 2016 入選／大阪・堂島リバーフォーラム

2017年 アート・オリンピア 2017 入賞／池袋・としまセンタースクエア

現代作家が描くクレパス展／大阪・サクラアートミュージアム

同巡回展／東京・ギャラリー5610／鳥取・日南町美術館

日本画展／ニューヨーク・在ニューヨーク日本国総領事館広報センター

ギャラリー

現在無所属

佐藤可英 Kae Sato Harada, 571 W 215TH ST APT E3, NEW YORK, NY 10034

www.kaesatoharada.com, torifu@hotmail.com